

## 事業計画書

|        |  |
|--------|--|
| 事業名    | 東海道 みちしるべ‘もう一人の浦島太郎ものがたり’紙芝居化 in ぬまづ   |
| 実施場所   | 沼津市内の旧東海道ルート沿い 及び その周辺エリア  |
| 実施予定期間 | ※イベントや研修会等の当日だけでなく、準備期間・実績の取りまとめ期間等も含めて記載してください。<br>令和 6年 6月 1日 ～ 令和 7年 3月 31日 |

## ◎事業概要

※事業の概要を 100～200 字で簡潔に記載してください（事業の紹介などで使用します）。

歴史の道「東海道」にちなみ、かつて街道の要衝地であった「沼津宿」にもゆかりのある江戸期の旅についての、沼津人による創作物語を、親しみやすい‘紙芝居’にするプロジェクト。

多くの市民にも接して頂きやすく、道と生業に関わり我が街が発展・拡大してきた姿にも思いを馳せて頂けるよう、ミニイベント・展示、等を組み合わせて複数個所での実施を検討する。

## ◎目的

※事業を行うきっかけ（地域の問題点や課題、社会背景など）と、その解決のために何をするのかを記載してください。

本事業では、以下を目的とする。

## 1. 沼津の歴史・民俗への親しみを醸成：

沼津をよく知る造詣の深い作者が創作した物語を、より親しみ易く‘紙芝居化’した成果物を作成、活用し、沼津の歴史・民俗への更なる親しみを醸成するきっかけを提供する。それにより、長く沼津に住まう方、新たに沼津へ移り住んだ方へも、共に地元の地域的・歴史的特色をより身近に感じて、地域の誇りとして捉えて貰えるような機会を展開する。

## 2. 市民参加型の学び・気づきの機会を提供：

事業の一部では現在の旧東海道の姿からたどる歴史ミニセミナー（講演や街歩き）も併催を予定し、申請者が昨年からの旧東海道筋で展開中の、街道ルートを示す「沼津宿‘吊り下げ旗’」掲示の引き続いた活用と、そこに工夫を加えた発展形（‘歩く’標識化）についても企画する。

## 3. 多様な年齢層にとって参加しやすい姿の模索：

本事業の第一目的成果物（紙芝居）の製作や活用にあたり、それぞれの強みを活かせるメンバーにより実行グループを組織する。また、それぞれの世代で個々の能力を発揮できる得意分野、例えば、物語原作者やその背景についての相談者に70～90歳台のメンバー、紙芝居の企画・制作・実行実務に40～60歳台、参加を促す先・呼びかけ先に幼児・小児～30歳台、を動員。

また、日常的に在宅が長く外出を控えがちな高齢の方々へもご興味を持って頂けるようなしくみ等を考え、幅広い年齢層に関与頂けるものを目指す。

## 4. 成果物の継続的活用：

今年度のみ利用に終わらない、街や人に残せる成果物となるよう、手仕事やものづくりの精神を忘れず活動する。又、希望する方（市民、学生他）が上演することも可能となる様な紙芝居舞台や会場環境を整備する為の関連物品等も可能な範囲で準備し、対応する。自らがその事例となることも検討し視野に入れる。

◎実施内容

| 日 程   | 実施項目・作業項目   |
|---|---|
| 2024年<br>6月<br><br>7,8月<br><br>8,9月<br><br>10,11月<br><br>2025年<br>~3月 | <p>※イベントや研修会等の行事日程だけでなく、実施内容(打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会)、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、事業期間すべてにわたる実施内容を記載してください。</p> <p>※ハード部門については、12月31日までに施設整備を終え、その後は施設を活用する計画としてください。</p> <p><b>実施項目、等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「もう一人の浦島太郎ものがたり」原作からの、紙芝居化、公開を実現するためのプロジェクト推進メンバーの組織化 (＜参考＞別添構成員)</li> <li>・紙芝居作成(原作読み込み、構成・再編、作画・彩色、原画からの複製作成)、口演準備</li> <li>・歩く‘標識’: 吊り下げ旗および作品をデザインしたTシャツ作成(スタッフ等への貸与・イベント時着用、のち希望者への頒布)</li> <li>・公開に向けた準備(発表の時期、場所、告知、並びに当日運営、等)</li> <li>・公開、展示、ミニセミナー、等の実施<br/>             口演(案): 旧東海道 沼津宿の三町(三枚橋、上土、本町)会場<br/>             展示(案): 沼津駅南 地下道等 街頭展示ケース<br/>             沼津駅アントレイメントスペース等 原画展・実演</li> <li>・意見収集、集計</li> <li>・事業報告</li> </ul> |

◎事業効果

|   |   |                            |  |
|---|---|----------------------------|--|
| <p>※事業の実施により、期待される効果を記載してください。</p> <p>今年度、実施したい事業は、昨年のスタート型事業の結果を踏まえたステップアップとして、以下の項目等について当事業による効果化を期待すべく意識して進めたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多世代へのアピール手法の有効性検討(既存マスコミ、SNS活用含む)</li> <li>・プロジェクトグループの組織化による関与者の拡大</li> <li>・複数回、または多様な場所での‘小刻み’な事業展開</li> <li>・成果物類の活用方法、活用機会の多様化(対面イベント、展示、貸出)</li> </ul> |   |                            |  |
| <p><b>成果指標</b></p>  | <p>※事業効果を客観的に評価できるよう、具体的な数値等を用いて成果指標を設定してください。</p> <p>紙芝居制作(完成)</p> <p>紙芝居口演時参加者(数、年代)</p> <p>紙芝居原画等展示会</p> | <p><b>指標の<br/>検証方法</b></p> | <p>※左記指標の検証方法を記載してください。</p> <p>成果物</p> <p>実施時画像等記録</p> <p>インタビュー、アンケート</p> |

◎評価の視点に合致していることの説明 ※評価の視点については、募集の手引きを必ず確認して下さい。

|                    |  |
|--------------------|--|
| <p>社会的<br/>必要性</p> | <p>※まちの活性化や魅力づくりのために有益であり、不特定多数の利益につながる質の高い事業であるか。<br/>                 学校教育においても地元の歴史・民俗に触れて学ぶカリキュラムが希薄になりつつある昨今、あるいは大人になってからの沼津転入者においてはそのきっかけもないまま、地域の誇りを心に灯す機会すら得られないのでは、沼津市民による地域の文化維持向上への潜在的損失とも言える。<br/>                 市内中心地における「沼津城」や街道筋の「歴史的街並み」を既に失っている沼津市街地において、歴史的文化基盤を個々人の心に留める為、人によりアクセスし易い話題提供をすることが、短期的にも中長期的にみても必要となる中で、身近な入口として接しやすい形が求められると考えている。</p>          |
| <p>地域性</p>         | <p>※地域課題の解決や地域資源の活用につながり、地域住民を巻き込めるか。<br/>                 よく耳にする自治会のジレンマに「住民が‘足元の街’へ出てこない」という声がある。集合住宅には高齢者から幼少者まで居住しているが、時を過ごせる場や、楽しみ(経験)を共有するコトが見つかりづらいこともその要因である。<br/>                 沼津の‘東海道’は、本来、人流・物流そして情報流の大動脈として人々の往来する、深い歴史を刻む宿場中心エリアであり、今なお人を街道歩き等に惹き寄せる様々なストーリーを持っている。その道は現在の鉄道駅と港湾をつなぐ「中間街域」を通る街なかに位置しているが、今またそこに新たな役割を持たせる様に「街道」をコアに活性化できないかと考えている。</p>             |
| <p>独創性</p>         | <p>※申請者ならではの着眼点や個性が見られ、新規性、チャレンジ性があるか。<br/>                 多年代に対して、街道のストーリー性のある時の流れを身近に感じられる「入口(手段)」を作りたい。現代と過去を結ぶ接点や、現実と空想を交えた表現として、昨今日本各地のみならず、世界でも注目の「紙芝居」に光を当てる。<br/><br/>                 そこで、コトを企画する側の人間構成から世代の違う人達を線で結び、プロジェクトを立ち上げ、本当の意味での「古くて新しい」を一緒に作りたい。</p>   |
| <p>実現性</p>         | <p>※資金やスケジュール、法令順守、関係者との調整に問題がなく、予算や効果が適正であるか。<br/>                 まずはこれまでにいくつかのイベント等でも顔を合わせている気心の知れたメンバーが、それぞれの得意分野でプロジェクトに参画することで前へ進める。<br/><br/>                 各人が、自らの活動で適正な感覚を得ている予算・資金感覚があるため、それを集積して適正な運営に結び付けていく。<br/>                 自らは事務局として、しっかりと全てを繋いでいく。</p>  |
| <p>発展性</p>         | <p>※事業の波及効果が見込まれ、意欲をもって主体的かつ継続的な活動ができ、資金確保への取り組みも十分か。<br/>                 既に各分野で実績を充分積むメンバーと新たなメンバーをプロジェクトで組織化して、将来またそれぞれの自己表現や興味の実現の場へ再び自らを導けるように、随時の相談と自由に意見を出し合うことを続ける。<br/>                 そのコアとして、物語として残るもの、知った者に語られそれぞれの場や人々の中で今後も共有できるものを作る。それと共に新たな語り手出現への種を撒く。<br/>                 また、共通してベースにある「東海道」の道をつなぐストーリーを今後もフォローしていく。その象徴として「沼津宿」をアピールする具体的イメージ、グッズ類も検討する。</p> |

### ◎次年度以降の活動予定

※ソフト部門（ステップアップ型）新規または2回目の応募で、助成の継続（最大3年まで）を希望する場合は、今後の活動予定と事業継続のための戦略について記載してください（今回の応募が次年度以降の助成を約束するものではありません）。

次年度以降の活動は、昨年度、今年度の成果物の継続的活用を基礎とし、その上で年度末～翌年度始めの時期等に対応を個別に考慮し、新たに他の活動との共催的規模のイベントなど助成利用が有効と思われるものが生じた場合、慎重に検討していきたい。

### ◎実績の評価と改善点（継続事業のみ）

※継続事業については、過去の実績に対する自己評価と実績を踏まえた改善点等について記載してください。

昨年「スタート支援型事業」として実施した「東海道みちしるべ in ぬまづ」で作成・掲示した吊り下げ旗は、街角に常設された「沼津宿」の案内表示として一定の機能を果たしている。

また前年度の実施の結果、事業報告した内容のうち、歴史ミニセミナー参加者へのアンケート等から見えてきた課題として、

「今後も知っていく(学んでいく)興味を持つきっかけ作り」、

「どのような形で自分に関われるかについての提案・深化」、

「より目につく場所、より多くの場所への展開、協力拡大」、

「更なる展開、活用、アピール」の実施、

等を挙げた。

ステップアップとなる本年はそれらに対応していくこととし、前述の「事業効果」欄に記載した効果目標としてそれぞれが少なからず現れるよう努力したい。